

●調査レポート

埼玉県内企業 2009 年度新卒者採用と春季賃上げ見込み調査

この調査は、埼玉県内企業を対象にした「2009 年度新卒者採用（2009 年 4 月入社）と春季賃上げ見込み」のアンケート調査結果をまとめたものである。

調査概要

- (1) 調査時点：2009 年 2 月上旬
- (2) 調査対象：埼玉県内企業 999 社
- (3) 回答企業：283 社（回収率 28.3%） うち製造業 162 社、非製造業 121 社
- (4) 調査方法：郵送によるアンケート記入方式

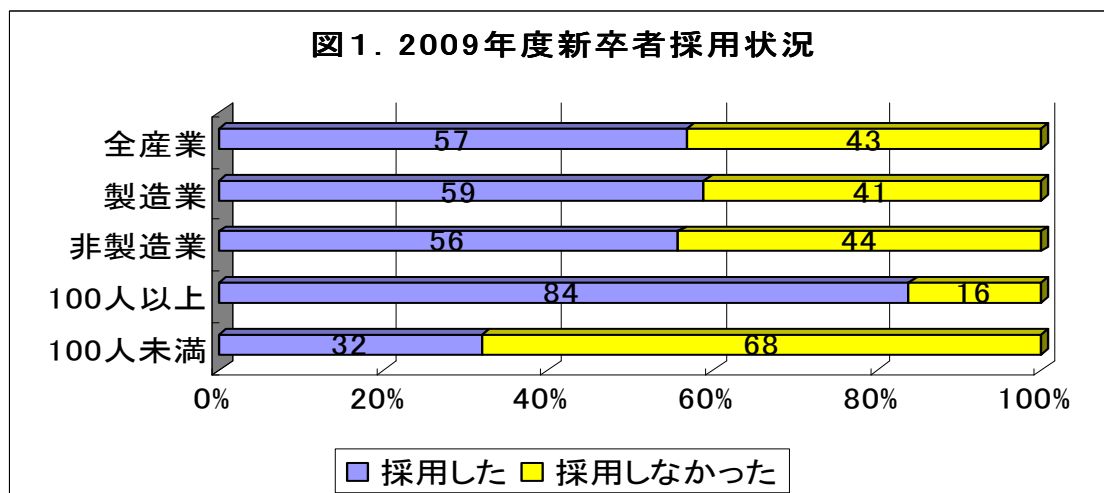
1. 2009 年度新卒者採用状況

(1) 採用予定

～全産業で 57%の企業が採用、6 年連続で半数を超す～

県内企業の 2009 年度新卒者採用（2009 年 4 月入社）について、「採用した」と回答する企業は全産業で 57%だった。採用企業割合が 5 割を超えるのは、これで 6 年連続となったが、前年度調査に比べると 3 割減少している。昨年 9 月以降から急速に悪化している国内経済や埼玉県経済だが、少なくとも新卒者の採用段階ではこれほど状況が一変しているとは予想しておらず、予定通り採用に踏み切ったものとみられる。

採用した企業を業種別でみると、製造業は 59%で前年度調査に比べわずか 1 割の減少で、非製造業は 56%と同 3 割減った。しかし、製造業は 3 年連続で、非製造業も 6 年連続で半



数を超している。企業規模別でみると、従業員 100 人以上の企業（以下、「規模の大きい企業」という）で新卒者を採用したのが前年度調査と同率の 84%だったのに対し、従業員 100 人未満の企業（以下、「規模の小さい企業」という）は同 3 割減の 32%と大きな開きがあり、相変わらず企業規模の大小では新卒採用の意欲に格差がみられている。

一方、「採用しなかった」との回答をみると、全産業や業種別では新卒採用の状況に差がないものの、企業規模別になると状況は一変する。規模の大きい企業で採用しなかった割合が 2 割弱だったのに対し、規模の小さい企業では 7 割弱と半数以上の企業に及んでいる。前年度に比べると製造業も非製造業も採用しなかった割合はほぼ変わらないでいるが、相変わらず規模の小さい企業では新卒者の採用意欲が盛り上がらないでいるようだ。

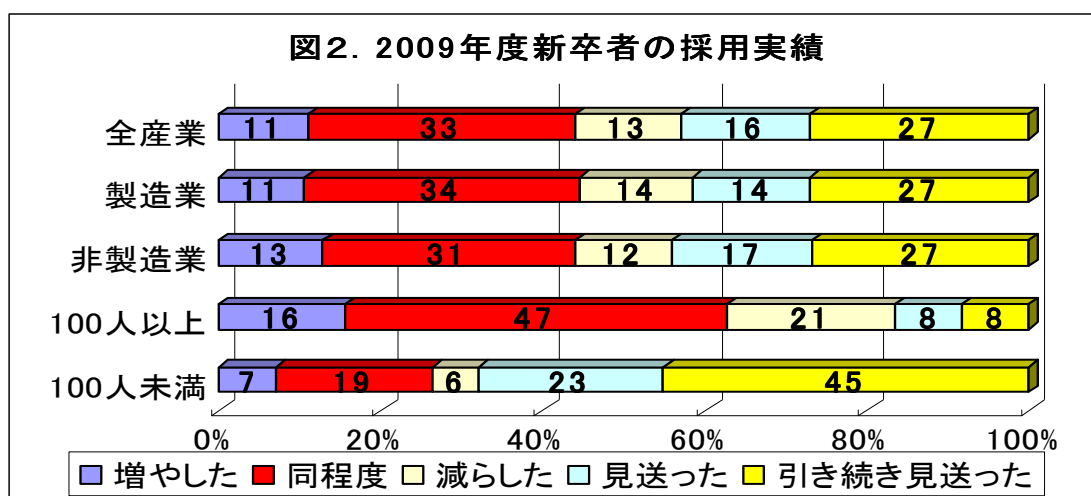
## （２）採用人数

～「増やした」企業は全産業で約 1 割、製造業では 5 割弱が「同程度」と回答～

新卒者を採用した企業で、前年度に比べ人数を増やしたかなどを聞いたところ、全産業で「増やした」との回答は 11%にとどまり、「同程度」を確保した企業は 3 割強となっている。業種別でもその傾向は変わらないが、企業規模別では大きな差がみられ、規模の大きい企業では 5 割弱の企業が「同程度」と回答しているのに対し、規模の小さい企業では 2 割弱にとどまった。

また、規模の大きい企業で「減らした」との回答が 21%あったが、規模の小さい企業ほど新卒採用に当たっては人数を減らさずに、人材確保に重点を置いていることがうかがわれる。逆に、採用しなかった企業の状況を見ると、これも全産業や業種では顕著な違いはみられないが、企業規模ではその差がはっきりと表れ、規模の小さい企業ほど数年にわたって新卒者を採用していない企業の多いことが目立った。

新卒者の採用状況を見る限り、製造業や規模の大きい企業ほど引き続き採用自体は堅調だが、前年度調査に比べると業種や企業規模にかかわらず人数を増やす企業が減り、逆に採用人数を減らした企業の割合が多かったのが今回調査の特徴と言える。

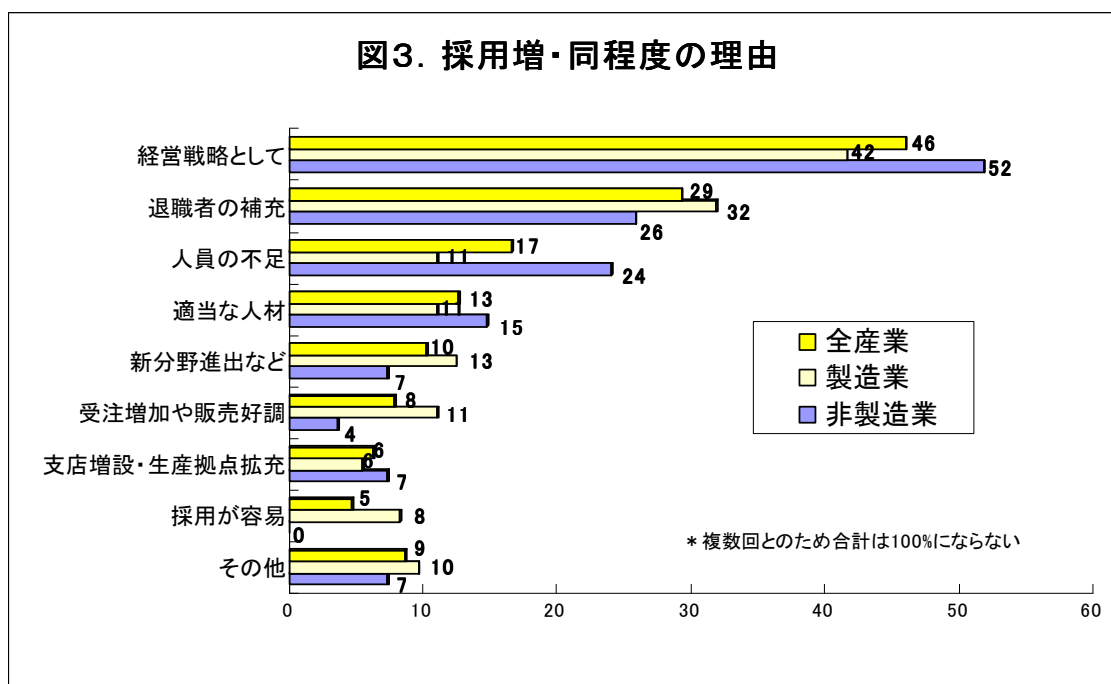


### 3) 採用人数を増やした理由（複数回答）

#### ～業種を問わずトップは経営戦略から～

採用人数を「増やした」、あるいは前年度と「同程度」採用した企業からその理由を聞いたところ、全産業では「経営戦略として」が46%で、次いで「退職者の補充」29%、「人員の不足」17%だった。前年度調査と比べると、「経営戦略として」は5ポイント増え、「退職者の補充」は6ポイント減り、「人員の不足」は19ポイントも減っている。例年、新卒の採用に当たっては経営戦略上から定期的に採用している企業が最も多い回答となっているが、今年の調査では一段と経営戦略重視で新卒者を採用することがうかがわれる。注目されるのは「人員の不足」と「退職者の補充」回答の減少で、その背景にはおそらく団塊世代の退職者を延長雇用している影響が少なからずあるようだ。

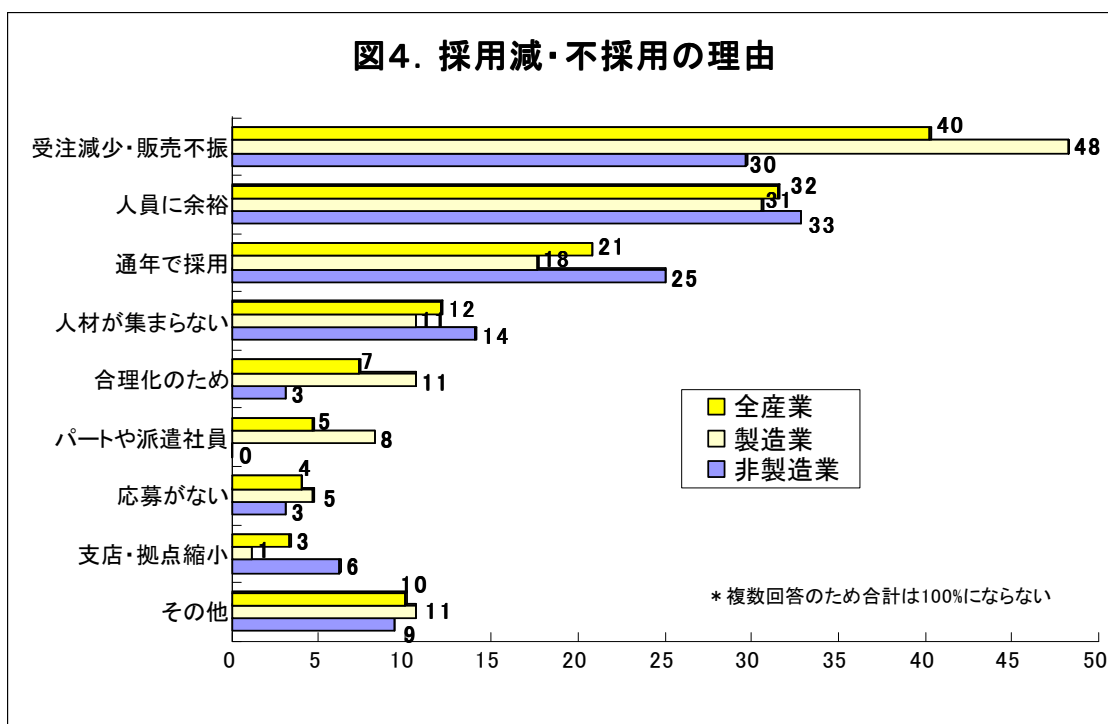
業種別でみると、理由のトップは全産業と変わらず「経営戦略として」だが、特に非製造業でその傾向が強い。2番目以降の理由では業種によって強弱があるものの、全産業でみられた「退職者の補充」や「人員の不足」理由は前年度調査に比べ大幅に減少し、特に「人員の不足」回答は二桁の減少となった。なお、「その他」の理由では、規模の小さい企業から「採用のチャンス到来」（非製造業）や「良い人材（技術者）を獲得するチャンス」（製造業）といったコメントがあり、これまで規模の大きい企業に優秀な人材を奪われていたのが、日本経済の悪化に伴って中小企業にも人材が流れて来ることを期待する声が寄せられている。また、計画段階では生産増加に伴う採用増を予定していたものの、急速な景気悪化で採用数を前年度並みに抑えてしまった製造業や、「内定取り消しを避けるため」との意見に代表されるように、既に採用を決定してしまった企業の苦しい台所事情を打ち明ける声もあった。



#### (4) 採用人数の減少及び採用しない理由（複数回答）

～製造業は「受注減少・販売不振」、非製造業は「人員に余裕」がトップ～

「採用人数を減らした」あるいは「採用を見送った」（「引き続き採用せず」を含む）と回答した企業の理由では、全産業では景気の悪化を反映してか「受注減少・販売不振」が40%でトップだった。特に業種別では製造業で48%に上り、前年度調査に比べて21%も増加し、業績悪化が新卒採用に大きな影響を与えている。次いで「人員に余裕」が32%と多く、「通年で採用」が21%との順で業種別でも上位3項目の順位は変わらない。前年度調査では全産業で6割近くあった「人材が集まらない」との回答は、今回調査では約1割に減少しているが、最近の就職事情を考慮すると買い手市場が広まっているようだ。また、全産業で10%あった「その他」の理由で最も多かったのが「新卒は一切採用していない」というコメントで、定年退職者を雇用していることや現有勢力を保つために敢えて新卒者採用を見送っている企業も多くあった。中には「景気の動向を確認してから」あるいは「外国人実習生、研修生を受け入れているため」という意見も散見された。



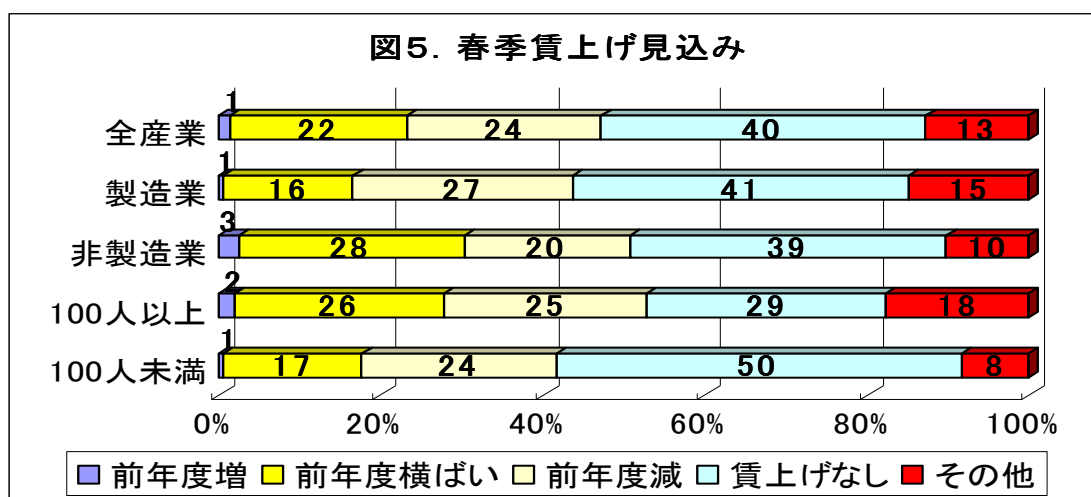
## 2. 春季賃上げ見込み

### (1) 賃上げ未実施見込み

～全産業で4割の企業が賃上げなし～

春季賃上げ見込み（定昇込み）を聞いた結果では、全産業で「賃上げなし」との回答が40%に上り、最近の業績悪化を反映した結果となった。前年度に比べ増額する企業はわずか1%で、「前年度横ばい」との回答も2割ほどにとどまっている。業種別でみると、「賃

上げなし」や「前年度増」との回答は製造業も非製造業もほぼ変わらないが、「前年度横ばい」は非製造業で28%あったのに対し、製造業は16%と2割を切り、逆に「前年度減」は製造業で27%と非製造業の20%を上回り、台所事情が厳しいようだ。企業規模別では、規模の小さい企業で「賃上げなし」との回答が5割に達した一方、規模の大きい企業では29%にとどまり、企業格差が広がっている。ただ、規模の大きい企業でも業績によってバラツキがみられている。なお、全産業で13%あった「その他」は、ほとんどの企業が『未定』とコメント、今後の経済動向を注視している状況が見て取れる。



## (2) 賃上げ額及び賃上げ率の見込み

～賃上げ額平均は1,622円、賃上げ率1.05%～

県内業の2009年(平成21年度)春季賃上げ見込額(定昇込み)と2008年の実績額を聞いた結果によると、回答した企業の今春賃上げ見込額は全産業で1,622円、賃上げ率は1.05%(単純平均)だった。最近の経済情勢を反映してか、各企業とも賃上げ額を押さえ込む姿勢が強いようで、前年度実績よりも大幅にダウンさせている。回答内容を細かく分析すると、定期昇給だけの賃上げとする企業が多いのが特徴といえる。業種別では非製造業よりも製造業の方がわずかに高く、企業規模別では規模の大きい企業よりも規模の小さい企業が金額、率とも上回っていた。なお、昨春の実績では全産業で3,937円、1.65%だった。

**表1. 春季賃上げ見込み(金額・率)と20年度実績**

区分	21年度見込額	21年度見込率(%)	20年度実績額	20年度実績率(%)
全産業	1,622	1.05	3,937	1.65
製造業	1,670	1.16	3,726	1.73
非製造業	1,563	0.91	4,221	1.53
規模の大きい企業	1,501	0.95	3,431	1.58
規模の小さい企業	1,712	1.15	4,393	1.72

回答企業228社